



職場集会

# 合理化と組破壊の先兵 長谷川を追放し、5711 合理化 粉碎

新小岩支部一四一名、枝葉区仲向の血と汗で築き上げたこの職場を、革マル分子らに汚されてしまるか。貨物合理化と対決して闘う仲向の表情は真剣そのものだ。



職場集会は、12時と17時の2回に分けて、78名の組合員が参加し若林支部書記長の司会で開かれた。冒頭、松崎靖新小岩支部長から「57・11大合理化の貨物合理化は新小岩・佐倉を直撃するものであり、全力をあげて反撃を準備しよう。これまで動労『本部』は、『貨物安定輸送路線』で労働者を武装解除し合理化攻撃の前に売り渡してきたが、臨調攻撃が始まるや今度は『働こう運動』を唱えて当局の先兵マル生分子をかって出ている。さらに今回『ブルートレイン検査係の添乗旅費をさかのぼって全額返済する』との反労働者の方針を率先して決定し推進するまでに至っている。どこまで国鉄労働者を裏切り、敵対すればすむというのか。

新小岩支部は、7月8日、職場集会を開催し、「57・11」合理化・既得権剥奪攻撃に反撃する体制を固めていくことを全員で確認した。そしてそのためにも、7月1日付で新小岩支部破壊の任務をおびて東京から送りこまれてきた当局の先兵・極悪革マル分子長谷川正彦（35才・電機士・元東京地本茅ヶ崎支部）徹底弾劾・追放の闘いを支部全員でおし進めていくこと意志一致をかちとった。

支部破壊許さず、「57・11」を粉碎しよう  
 松崎支部長あいさつ

またこの日（7月8日）、多くの新小岩支部組合員から追及された長谷川は、「親の面倒をみるために転動してきた」と言い訳しようとしたが、組合員から「これまでと同じ神奈川県茅ヶ崎市の国鉄宿舎に住んでいて、はるばる遠距離通勤し、親と同居もしないで、何が『親の面倒みる』だ。こんなデタラメな『転動』があるか！」と事実をつきつけられて反論もい訳もできなくなりました。

新小岩襲撃は「上からの指令でやったまで」

また、「一九七九年四月二十一日の動労千葉新小岩支部結成大会を六五〇名で暴力襲撃し、庁舎や組合事務所を破壊し荒しまわる暴挙をはたらいたこと」の責任を追及されたのに対し、長谷川は「あの時には、自分はガラスはこわさなかった。あれは上からの指令でやったことなので、自分だけを責めないでくれ」と、シドロモドロのいい訳をした。長谷川は自分が新小岩襲撃の実行者である事実を認めたのであるが、「自分には責任がない」といいのがれようというのだ。何たる卑劣漢か！しかし、現に、今もなお「6・12公判」動員でいつも先頭に立って指揮をとっている革マル長谷川が、こんな卑劣ないのがれと居なおりで、支部組合員の怒りの追及からのがれられると思ったら大まちがいだ。長谷川、海宝をさらに徹底的に断罪し追放しよう。

## 421新小岩襲撃を屈する長谷川を許さな

「親の面倒」は、やっぱりウソだった！

本部を代表して水野副委員長が、「57・11は臨調の先どり実長谷川への断固たる対応を支部全体で確認

「先日の津田沼の野口が、『千葉には労働運動がないから、長谷川さんは千葉に運動をつくるために来るんだ』と思わず本心をバクロする言葉を吐いたが、彼らのいう『運動』とは一体何か。当局とゆ着してスト破り・合理化推進・もっと働けと強要・権力にタレこんで労働者を売る、こんな『運動』をもちこませる訳にはいかない。全員で断固として対決し追放しよう」と提起し、討論のち全員の固い意志一致をかちとり終了した。

「三里塚二期着工攻撃」と「57・11」合理化攻撃の本格化の中で、当局・権力の意をくんで革マル分子長谷川が新小岩に「転動」してきたという事は、実に計画的な組織かく乱破壊策動だ。茅ヶ崎支部青年部長はじめ役員を歴任してきた長谷川は、「4・21新小岩襲撃」や「6・12デッチ上げ事件」公判等でも革マルとしての立場で常に先頭に立って指揮をとってきた男だ。新小岩に革マルの反動的運動をもち込み、支部を破壊するためを送り込まれたのであり、断じ許すわけにはいかない」と決意をこめたあいさつがなされた。

「先日、津田沼の野口が、『千葉には労働運動がないから、長谷川さんは千葉に運動をつくるために来るんだ』と思わず本心をバクロする言葉を吐いたが、彼らのいう『運動』とは一体何か。当局とゆ着してスト破り・合理化推進・もっと働けと強要・権力にタレこんで労働者を売る、こんな『運動』をもちこませる訳にはいかない。全員で断固として対決し追放しよう」と提起し、討論のち全員の固い意志一致をかちとり終了した。

「先日、津田沼の野口が、『千葉には労働運動がないから、長谷川さんは千葉に運動をつくるために来るんだ』と思わず本心をバクロする言葉を吐いたが、彼らのいう『運動』とは一体何か。当局とゆ着してスト破り・合理化推進・もっと働けと強要・権力にタレこんで労働者を売る、こんな『運動』をもちこませる訳にはいかない。全員で断固として対決し追放しよう」と提起し、討論のち全員の固い意志一致をかちとり終了した。

日刊 動労千葉

82, 7, 11  
 No. 1093

国鉄千葉動力車労働組合  
 千葉市要町二一八（動力車会館）  
 (鉄電)二九三五・六(公衆)四三三二七二〇七